

ばやがてわきの御せんを供ず、もし程を経ば内辨もよほす、その詞に云、御後に職事や候、わきの御膳或はのこりの御せんとも云、五位藏人、西の階のへんすのこにて是をもよほしおこなふ、おほよそ御膳のくさん、其名はあれども其形いづれともわきがたし、内膳などたしかにいまだたづねとはず、てんせい、ひつら、かつこ、けいしんなどやうの物なり、こんむ、さくべいは、目ちかきものなれば、さだめて人もおぼつかなからじ、内辨臣下のこんとんをもよほす、大辨の宰相につたへて、ちいさわらはを二聲めして仰するなり、内堅こんとんをすへをはりて、大辨宰相御はしを申内辨に氣しよくす、内辨天氣に候、御はしくだるはしるはしくはめさすして、扇して、御に應ず著なり、次にあつものを供ず蛇のあつものなり、進物所、御づし所たかもりひらもりまで、例のごとく供じをはりて、其由をうねへ内辨に申す、内辨はんしるをもよほさしむ、こんとんのごとくすへをはりて、大辨御はしを申す但我まへのはつ、内辨の奏さきのごとし、御はしくだる、さきのごとし、但本儀にまかせて、かねのかいはしをたついまの代の、臣下おなじくはしをたつ、次に三節のみき供じて後、一二こんを供ず、是も本儀にまかせて、今はうるはしくめすなり、臣下の一獻大臣さきのごとく催す、大方大辨なき、さけのかみさかづきをもつ、内堅へいじをもつ、その人のまへにてさけのかみうけて、平をとなへておのくす、むるなり、おくの座は内堅のかみさかづきを取る、酒のかみにおなじ、内辨座をたちて、軒廊にて國栖をもよほす、吉野のくすうた笛を奏すかたのごとくなり、次に二獻、一こんのごとくをはりて、内辨の座を立て、磬屈して奏してはいく、まちなんだちのみき給はん、天許をはりて、参議一人をめしてこれを仰す、奉る人座をたちて、稱唯して、すゑより内辨のうしろにけいくつしてたつ、内辨仰云、まうちきんだちのみきたまへ、参議うけたまはりて、軒廊にくだりて、交名をとりてかへりのぼる、南のすのこ第二の間の西のはしの邊にて是を仰す、一揖してあさくふかくふた、びかへりみるていなり、座にかへりつく、